

# エルサルバドル政治経済月報 (2020年9月分)

2020年10月  
在エルサルバドル大使館

## 内政

### 1. ブケレ政権と犯罪組織MS-13の交渉疑惑

(1) 3日、ネットメディアである「El Faro」は同社が入手した行政府の公的書類を根拠に、ブケレ政権が犯罪組織MS-13の服役中の幹部と政権が発足した2019年6月より交渉を行い、ブケレ政権がMS-13に対して刑務所内での様々な便宜を図る代わりに、MS-13が殺人件数を減少させ、2021年2月の国会議員選挙において、ブケレ大統領の政党である「Nuevas Ideas:NI」を支持する旨で合意していた旨を報じた。

(2) 「El Faro」は刑務所の内部書類によって、ブケレ政権関係者とMS-13の幹部が複数回にわたり交渉のための会合を行ったことが確認されていると報じている。「El Faro」の報道によると、両者は刑務所内の管理制度の緩和、複数の法律の廃止、2021年国会議員選挙でNIが過半数を得ることを条件にMS-13に様々な便宜を図ることが合意された。また、異なる犯罪組織の構成員を同じ刑務所に収容させる措置がとられていたが、交渉の過程でかかる措置は見直され、その指示はオシリス・ルナ刑務所長官によって出されたものの、ルナ同長官は犯罪組織との交渉の事実を否定している。

(3) 「El Faro」は両者の合意をより完璧なものとするために交渉は継続していると報じている。

(4) 4日、メララ検察長官は、「El Faro」による報道を受け、ブケレ政権とMS-13の間の交渉が存在したかどうかについて捜査を行う旨明らかにした。

(5) 4日、ブケレ大統領は自身のツイッターに、「テロリストの人権を侵害しているとして我々を批判する者がいる。今になってテロリストに対して特権を与えていると主張している？我々が何の特権を与えているのか、1つでも良いから示してみろ。」「我々に対して批判を続けていた同じ者が、今になって我々のテロリストに対する対応を批判しているということ？誰かが誤った情報を発信している。」とのメッセージを発出し、政府と「MS-13」の交渉疑惑を否定した。

### 2. 公共情報アクセス法の規定改定

(1) 8月31日付官報の公布によって発表され、9月10日より効力を発効した公共情報アクセス法の規則改定は、市民の公共情報へのアクセスを阻害することになると指摘される。不開示情報の分類を巡る問題に関し、従来、情報開示を求める市民は公共情報公開庁（IAIP）に対し直接訴えを行うことができたが、今般の規定改定により、IAIPへの訴えの前に不開示情報を理由に情報開示を拒否した政府機関に対し、営業日15日以内に訴えを行う必要があると定められた（第38条）。また、IAIP長官の権限が強化された（第68条）他、IAIPの理事になる条件として定められていた公務員倫理法に反しないという条件等が削除された（第65条）。

(2) 今般の公共情報アクセス法の規則改定を巡っては、全国民間企業連盟（ANEP）等の民間団体から市民の公開情報へのアクセスが阻害されることになるとの批判の声が上がっているのみならず、IAIP理事会の中からも反対の声が上がっている。

### 3. 国会によるメリーノ国防大臣の解任勧告

(1) 17日、エルサルバドル国会は賛成50票、反対1票でブケレ大統領に対するメリーノ国防大臣の解任勧告を承認した。2月9日にブケレ大統領が治安当局を国会に動員した事案に対する責任をメリーノ国防大臣は有しており、かかる行為はエルサルバドルの民主主義及び三権分立を危機に陥れるものであるというのが、今般の解任勧告の根拠である。また、エルサルバドル国会はエルサルバドル検察庁に対し、2月9日の事案について調査する特別委員会について設置の可

能性について通達するとともに、米州機構（OAS）の加盟国及びOAS事務総長に対し、今回の2月9日の事案に関し、米州機構憲章に基づく対応を採択するための常設理事会を即時招集するよう求めている。

（2）ブケレ大統領は今般の国会によるメリーノ国防大臣の解任勧告に関し、即座に自身のSNSに「今の国防大臣を解任する？歴代で最良の国防大臣を？（答えは）NOだ」というメッセージを発出した。

#### 4. 最高裁憲法法廷による政府関係者への捜査命令

（1）23日、最高裁憲法法廷は、ブケレ政権関係者が在外エルサルバドル人の帰国を制限してはいけなかったとした同法廷の判決を遵守しないとして、不遵守、専断的行為、職務不履行等の容疑で、かかる関係者に対する捜査を行うよう検察庁に命じた。

（2）新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックの影響で在外に残されたエルサルバドル人及びエルサルバドルの永住権を有する外国人の入国に際し、入国72時間前までのPCR検査の実施を求める政府に対し、18日、最高裁憲法法廷はPCR検査の結果が提示されないことを理由に入国を拒否することは憲法違反にあたるとの判決を下した。しかし、政府は航空会社に対し、エルサルバドル行飛行機への乗客の搭乗に際し、PCR検査の結果を提示しない乗客の搭乗を拒否するよう求める形で、実質的に乗客に対しPCR検査の結果の提示を課している。

（3）最高裁憲法法廷の今般の命令においては、ブケレ大統領、アンリケル・エルサルバドル空港港湾運営委員会（CEPA）総裁、クカロン移民局長及び大統領府による同法廷の判決の不遵守が指摘されている。なお、今般の命令で同法廷が指摘する不遵守、専断的行為、職務不履行等の容疑における刑罰は、1年から6年の懲役又は公職につく権利の剥奪と定められている。

（4）メララ検察庁長官は、23日夜、自身のツイッターで最高裁憲法法廷の命令に従い、捜査を開始した旨のメッセージを発出した。

#### 5. 地方交付金の未払い問題

（1）30日付当地主要各紙は、地方社会経済開発基金法（FODES）に基づく地方交付金の未払いにより、35の地方自治体が行行政サービスの停止を余儀なくされる可能性について報じた。東部地域の35の地方自治体は、政府によるFODESに基づく地方交付金の未払いが続いているため、近日中に行政サービスの停止を余儀なくされる可能性がある。

（2）24日には東部地域のみならず、首都サンサルバドル市、首都圏のサンタ・テクラ市、メヒカーノス市、北部のチャラテナンゴ市等、全国の自治体関係者が、財務省の前で地方交付金の未払いに対する抗議活動を行った。政府は過去4か月、地方交付金及びCOVID-19対策として国会承認された米州開発銀行（IDB）からの借款2億5千万ドルのうち地方自治体向けに割り当てられた7千5百万ドルの給付を行っていない。セラヤ財務大臣は地方自治体関係者の抗議活動に関し、FODESは職員の給与の支払いに使うものではない旨のツイッターメッセージを発出し、今般の抗議活動は政治的集会であると批判している。

（注：FODESでは、地方交付金の25%は自治体の機能維持のために支出可能と定められており、その25%のうち50%までを職員の給与支払いに利用することが可能と定めているが、COVID-19のパンデミックの影響による経済危機に対応するために、本年4月に国会はFODESの時限法的改正を行い、地方交付金の25%全体をパンデミック時に限定する形で、給与の支払い及び地方債務の支払いに使用することを可能とした。）

（3）エルサルバドル地方自治体協力機関（COMURES）は国会財務委員会に対し、地方交付金及び地方自治体向けに割り当てられた7千5百万ドルの給付を受けていない旨陳情を行っている。これを受け、国会財務委員会は、28日、会計検査院（CCR）に対し、政府の歳入に関する調査を行うよう要請した。国会財務委員会は、政府の歳入状況によって、FODESが定める地方交付金の一部を免除する案を検討する考えを示している。

## 1. 「FOMILENIO第2フェーズ」の期間延長を巡るブケレ政権への批判

(1) 4日付当地主要各紙は、ブケレ大統領の権威主義的言動に対する懸念が、米国による当国開発支援プログラム「FOMILENIO第2フェーズ」の継続に悪影響を与えている旨報じた。ブケレ大統領による最高裁及び国会を軽視する度重なる言動によって、米国によるエルサルバドル開発支援プログラム「FOMILENIO第2フェーズ」の継続は危機に瀕していると、米国政府高官が匿名を条件に明らかにした。

(2) 5月29日、「FOMILENIO」の実施機関であるミレニウム挑戦公社(MCC)のトーマス・ケリー副所長代理はエルサルバドル政府に対し、ブケレ大統領の権威主義的言動はエルサルバドルが米国からの支援を引き続き受けるに値するという同国の評価に悪影響を与えている旨警告する書簡を送付した。また、米国上院は9月9日以降の「FOMILENIO第2フェーズ」の継続について検討を行うが、とりわけ民主党所属議員からブケレ大統領の権威主義的言動を問題視する声があがっている。ブケレ大統領の権威主義的言動には本年2月9日の治安当局を動員し国会に圧力を与えた事案及びCOVID-19対策として課したエルサルバドル全土を対象とした完全自宅待機命令下における権力の乱用を防止する最高裁の判定を無視する行為などが含まれる。

(3) ケリー副所長代理の書簡には、「エルサルバドル政府による直近の行為は、MCCが支援対象国を選別するために定める条件を同国政府が遵守するつもりがないのではないかという疑念を呼んでいる。MCCによる支援の継続は、法治国家及び基本的権利の厳密な遵守次第である」旨が記載されている。ケリー副所長代理の書簡は、米務省が米国上下両院議会に送付したブケレ政権によるエルサルバドルの制度及び報道の自由に対する侵害について懸念を示す文書に次ぐものである。

(4) MCCは支援対象国の選定のために20の項目を評価しており、エルサルバドルの評価については2019年11月1日に公表された。右評価結果によると、エルサルバドルは財政政策、インフラ、規則制度、通商政策、ジェンダー、土地の所有権及びアクセス、クレジットへのアクセス、市民の自由及び情報の自由、公共保健及び幼児の保健並びに教育分野における公共出資の分野では合格しているが、雇用創出、汚職対策、政府の機能性、環境保全、特権、女兒の中学校卒業率の分野では不合格とされている。

(5) 「FOMILENIO第2フェーズ」は2014年9月30日に協力合意が締結され、民間投資誘致、教育の質向上、ロジスティック及び運送のコストの減少等を目的として、総額2億7千7百万ドルの協力プロジェクトが5年間の期間に実施されることとなった。7月30日の時点で2億7千7百万ドルのうち74%が使用されている。エルサルバドル政府はCOVID-19のパンデミックを理由に、本年9月9日に期限が切れる「FOMILENIO第2フェーズ」の6ヶ月から12ヶ月の期間延長を申請している。その一方、エルサルバドル政府は「FOMILENIO第2フェーズ」に8千8百万ドルを拠出することで合意していたが、かかる拠出を行っていなかった。9日、エルサルバドル国会は、エルサルバドル政府による「FOMILENIO第2フェーズ」への拠出にかかる予算を承認した。他方、米国上院側の「FOMILENIO第2フェーズ」の延長に関する審議は進んでいない。

## 2. TPS問題に関するブケレ大統領の発言

14日、米国第9巡回区控訴裁判所が米連邦判事による一時的被保護資格(TPS)終了の差止め判決を無効とする判決を下したことに對し、同日、ブケレ大統領が自身のツイッターで発言した。

### (1) ブケレ大統領のツイッターメッセージ概要

(ア) TPSに関し、従来の延長は1年半であったが、トランプ大統領によって与えられた最後の延長は実質的に2年間(司法判決後の1年間の猶予を含む)であったことを思い出して欲し

い。

(イ) つまり、TPS資格を有するエルサルバドル人は1年間の移民保護を有している。我々の同盟たちに対し、永続的解決策、または、少なくとも一時的な解決策を頼むに十分な1年間という時間を有している。

(ウ) 米国との関係はかつてないほど強固なものであり、昨年、司法判決が好ましいものでなかった時のために1年間の猶予を交渉していた。その際には、TPSの資格者を保護したのはホワイトハウスではなく、連邦判事の判決であると我々を批判する者たちがいた。

(エ) 司法判決が好ましいものでなかった際に我々に1年間の猶予を与えてくれたのはホワイトハウスである。

(オ) TPSはマドゥーロ政権に近いファラブンド・マルティ民族解放戦線(FMLN)前政権の責任で失われたものである。我々がマドゥーロ政権の外交団をエルサルバドルから追放した直後、TPS資格を有するエルサルバドル人への新しい恩恵が発表された。

(カ) 数十万人のTPS資格を有するエルサルバドル人及び数十万人のその家族である米国市民をエルサルバドル・米国の両国で保護するための解決策を模索するために、我々は同盟、友人、パートナーたちと膝をつき合わせて話をする1年間の時間を有している。

(2) TPSに関しては、2019年10月、TPS資格を有するエルサルバドル人の労働許可書の有効期限を2012年1月4日まで延長する旨及びTPS関係で本国へ帰還する旨の判決が出た後、365日間は追加でTPS資格を付与する旨が両政府間で合意されていた。

### 3. 中米における難民及び強制移住者に関するグローバル・コンパクトにかかるイベント

(1) 23日、第75回国連総会の枠組みにおいて、ヒル外相は「米州における保護と解決のための地域統合フレームワーク(Marco Integral Regional de Proteccion y Soluciones par las Americas:MIRPS)」の議長国であるエルサルバドル政府の代表として、スペインのアランチャ・ゴンサレス・ラヤ外交・EU・協力大臣とともに、「中米における難民及び強制移住者に関するグローバル・コンパクト(El pacto global sobre los refugiados y el desplazamiento forzado en Centroamerica)」と題されたイベントの共同議長を務めた。エルサルバドルとスペインが主導した右イベントは、中米地域における協力、及び、人の強制移住の問題に対しMIRPSが促進する対応の強化を目的としたものである。

(2) 遠隔型で行われたイベントにおいて、MIRPSの包括的難民支援枠組み(CRRF)にかかる先駆者的イニシアティブ、及び、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)及びOASが支持する難民に関するグローバル・コンパクトへの具体的貢献の重要性が強調された。

(3) ヒル外相は、MIRPSを構成するベリーズ、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマを代表し、MIRPASは、人々が強制移住を余儀なくされることのない安全と繁栄の条件を生み出すことに対する責務を共有している旨述べた。

(4) COVID-19のパンデミックは追加的問題を生じさせている。パンデミックは、脆弱な環境に置かれている者を含む全ての人々への対応及び安全を保障するための取り組みを各国政府に課している。暴力、迫害、亡命申請によって中米北部から強制移住を余儀なくされた者が、2019年に世界中で登録された47万人の難民に加わった旨、ヒル外相は述べた。このような状況において、MIRPS加盟国は各国における取り組み及びエルサルバドルが本年年初に提示した年間計画の取り組みを継続している。

(5) エルサルバドルにおいては、連帯した市(Ciudades Solidarias)イニシアティブの下、地方政府との協力による取り組みが進んでいる他、強制移住者の地域への再統合において、民間セクターが雇用創出、金融サービスの提供等において重要な役割を担ってきた。また、市民団体や国連の関係機関、国際協力機関等との対話、連携のためのメカニズムも構築されてきている。

(6) イベントにおいては、コロンビア及びイタリアの専門家によって国内の強制移住に関する知見が共有された。ヒル外相は、MIRPASへの支援プラットフォームの議長国であるスペインの協力及びリーダーシップの重要性を強調した。同プラットフォームをアルゼンチン、ブラジル、カナダ、コロンビア、フランス、イタリア、スペイン、スウェーデン、スイス、米国、EUが支援している。

(7) ゴンサレス外交・EU・協力大臣は、COVID-19のパンデミックが強制移住の状況を悪化させている旨指摘し、中米地域の各国政府による同問題への取り組みを支援していくことの重要性について述べた。アルマグロ OAS 事務総長は強制移住の問題に対し、MIRPAS 及び各国政府が協力することの重要性について述べ、中米各国による取り組みに OAS も協力する旨述べた。

#### 4. ウジョア副大統領及びポルタル外務次官の訪米

(1) 23日-29日の日程で米国との友好関係及び協力関係を強化する目的で、ウジョア副大統領がヒューストン、テキサス、ラスベガス、ネバダ、ロサンゼルスを訪れた。同訪問にはポルタル外務次官（在外エルサルバドル人担当）が、ヒル外相の代理として同行した。

(2) 23日、ウジョア副大統領とポルタル外務次官は、Sylvester Turner ヒューストン市長と会談し、同市に在住する20万人強のエルサルバドル人の利益にかなう取り組みに対するフォローアップを実施した。エルサルバドル側は、エルサルバドルの公式身分証明書(DUI)を様々な公的手続きを行う際に有効な証明書として認めることを要請した。

(3) 23日、ウジョア副大統領とポルタル外務次官は、在米エルサルバドル人の支援団体 USA Salvadorean Development Foundation (USASDF) の代表等と会談を行った。ポルタル外務次官は USASDF の取り組みに対し、謝意を表明した。

(4) 24日、ポルタル外務次官は在ヒューストン及び在ダラスのエルサルバドル領事館を訪れ、在米エルサルバドル人に対して行われている対応に関し確認を行った。また、ポルタル外務次官は、業務再開後の COVID-19 対策として実施されているバイオセキュリティ対策の確認を実施した。

(5) 25日、ポルタル外務次官は在マッカレン、在エルパソ、在ラレド、在ヒューストン、在ダラスの各エルサルバドル領事館の領事との会合を行った。右会合においては、各領事から各領事館の実情、必要性、課題等が共有され、領事サービスの改善策が話し合われた。

(6) 27日、ウジョア副大統領とポルタル外務次官は、ラスベガスで活動するエルサルバドル人企業家との会合を行い、在米エルサルバドル人の雇用創出及びこれらの者のコミュニティーの発展について話し合った。また、ウジョア副大統領とポルタル外務次官は Toro Taxes 社の視察を行った。同社への視察では、同社がエルサルバドルに行っている投資プロジェクトを継続することを目的とした同社代表による数ヶ月以内のエルサルバドル訪問が合意された。同社は2019年よりエルサルバドルでコールセンターを創業している。

(7) 27日、ウジョア副大統領とポルタル外務次官はラスベガスにて、COVID-19の影響でエルサルバドルへの帰国が困難になった者の帰国を支援した者への表彰式に出席した。

(8) 29日、ウジョア副大統領とポルタル外務次官はラスベガスにて、在米エルサルバドル人コミュニティーのリーダーたちと会合を行った。また、同日、両者は John Lee ラスベガス市長及び Isaac Barron 同副市長と会談した。同市長及び同副市長はラスベガスにおけるエルサルバドル人コミュニティーの重要性を強調し、エルサルバドルとの友好関係及び協力関係を強化し続けることに対する関心について述べた。

(9) 29日、ポルタル外務次官はロサンゼルスでエルサルバドル領事館関係者との会合を行い、領事サービスシステムの近代化にかかる変化について確認を行うとともに、領事館関係者に対し、在米エルサルバドル人と近い距離感を保つよう指示した。

(10) 29日、ウジョア副大統領はロサンゼルスで活動するエルサルバドル人企業家と会合を行った。

#### 4. 次期在米国エルサルバドル大使の任命

(1) 24日、ブケレ大統領はミレーナ・マジョルカ次期在米国エルサルバドル大使の任命を発表し、宣誓式を行った。マジョルカ次期大使は最大野党国民共和同盟 (ARENA) 所属の国会議員であるが、客年の大統領選挙でブケレ大統領が勝利して以降、ブケレ大統領への支持を公にしており、ARENA 執行部の辞任を求めるなど、党内での反対勢力と見られてきた人物。

(2) マジョルカ次期大使は自身のツイッターに、大使への就任は、我々のディアスポラ及び米国政府という信頼の置ける最大の同盟国との重要な関係に関わる自身の政治キャリアにおける新

しい挑戦である旨のメッセージを発出した。

## 5. 第75回国連総会におけるブケレ大統領の演説

29日、ブケレ大統領は第75回国連総会において、ビデオ演説を行ったところ、右概要は以下のとおり。

(1) 1年前の国連総会において、私（「ブ」大統領）は国連総会のフォーマットの変更の必要性について述べた。歴史的パンデミックという状況によるものではあるが、国連はその総会のフォーマットを変更した。しかし、その結果の重要性は議論されることもなく、世界の多くの人々は、国連総会が開催されていることに気がついてすらいない。私（「ブ」大統領）は様々な人々に国連総会について訪ねてみたが、多くの者は国連総会が開催されていることを知らなかった。

(2) エルサルバドル大統領である私（「ブ」大統領）もまた国連総会の一員であり、今述べたことは自己批判の精神から述べたものであるとともに、一人の人間として、国連総会のポテンシャルについて信じている。しかし、世界の変化のスピードは著しく、今日に世界は数年前の世界とは異なるものである。そして、変化しないものはこの世の中から消えていくこととなる。歴史上、かつてないスピードで社会が変化している。

(3) このような状況で国連総会は何を行ってきたのか？我々が望む未来を構築するために必要な価値ある変化の代わりに、パンデミックに強制される形で演説をビデオで送るようになっただけである。世界は変わり続けるが、我々は変わらないのか？私（「ブ」大統領）の発言はある者たちにとってはとても強く聞こえるだろう。しかし、国連総会創設の原理に鑑み、次の言葉を伝えたい。（国連総会が）生き残るために変わることを望む。人類にとって国連総会を価値ある手段として活用するために、（国連総会が）変わることを望む。世界の変化の中で、人類の未来の中で、全ての者が共有する場として、（国連総会が）変わることを望む。

(4) 変わらなければならないのは国連総会だけではない。人類の近代の歴史の中で最も深刻な危機を生きる中、国連は何をしてきただろうか？このパンデミックに対し、国連は何を行ってきただろうか？

(5) パンデミック下において国際協力があつた。この点に関し、エルサルバドルを支援してくれた、また、支援し続けてくれている国、国際組織に対し感謝の意を示したい。600個の人工呼吸器を供与してくれた米国政府及び同国国民のおかげで、31の集中治療ユニットが整備できた。日本国政府及び同国国民の協力がなければ、地域で最大かつ、新型コロナウイルス対策として最も近代的な病院を建設することは出来なかった。日本政府及び同国国民に対し、心より感謝する。

(6) これらの支援は二国間関係によって行われたものであり、国連の制度によるものではない。COVID-19のような人類にとって共通の敵に対し対応するリーダーシップが国連には欠けている。しかし、過去を嘆くだけでは意味がない。同様な危機、または、今回の危機よりもより深刻な危機に人類が直面したときのために準備を行うための好機ととらえるべきである。未来を構築するための機会とするべきである。

(7) 私（「ブ」大統領）が子供の頃、未来の可能性が輝いていた。人類の集団意識に基づく文化的多様性を持つ世界では戦争もない。そのような未来を想像していた。今日の若者たちは、未来について何を想像するのだろうか。自然災害によるカタストロフィー、パンデミック、戦争、世紀末的考え、そして、ディストピア的社会であろう。私（「ブ」大統領）が言うことが信じられないのであれば、周りにいる若者に聞いてみればいい。

(8) 他方、技術は我々の想像を超える深化を果たしている。我々はそれぞれのポケットの中にスーパーコンピューターを所持しており、多くの者が私（「ブ」大統領）のこの演説をそのスーパーコンピューターで聞いている。スマートフォンは、人類を月に到達させたスーパーコンピューターよりも高性能であり、最新のiPhoneは60年代、70年代、いや、90年代に存在したスーパーコンピューターよりも高性能を誇る。これらの技術によって人類はかつて存在しなかったネットワークでつながれている。我々人類は、このネットワークが持つ潜在力について十分に理解していない。

(9) このような技術が発展した世界においても人類が抱える歴史的課題、つまり、貧困、住居

の不足、治療可能な病気による死等の問題が存在する。しかし、人類が共同でこのような問題に取り組もうと決断すれば、これらの問題は数ヶ月、または、もっと短い期間で克服することが出来るだろう。我々が有する能力についてこの数ヶ月、我々は目撃してきた。世界的には COVID-19 用のワクチンの開発が進んでいる。この点に関して、エルサルバドルの多くの命を救うこととなった公衆衛生プロトコルの策定につながった研究を行ったイタリアの医療関係者たちに感謝の意を示したい。

(10) エルサルバドルにおいてはこの数ヶ月で医療制度の改善が進められてきた。まだ、やるべきことは残されているが、我々は、取り組みを継続すれば、我々が想像している以上のものを、想像しているスピードよりも早く達成できることに気がついた。

(11) 友好国の協力もあり、殺人、恐喝、窃盗等あらゆる犯罪指標を劇的に減少させることが出来た。現政権では、(過去政権で殺人等の被害に遭っていた) 10 の世帯のうち 9 世帯を救うことが出来た。取り組みを続けることによって、2 年前には世界で最も危険な国と考えられていたエルサルバドルを、米州で最も安全な国の 1 つとしたい。

(12) 我々は新しい国家建設のデザインを描き始めたところである。我々は世界にとって新たなモデルとなる国を作りたいと考えているが、世界にはそれぞれの特徴をもつ社会が存在する。世界中がつながれた世界において、これら先駆者たちに対し、エルサルバドルの奇跡を達成するための取り組みを我々と共に行っていくことを呼びかける。

## 経済

### 1. 米州開発銀行 (IDB) からの借款に関する国会承認

9 日、当国国会による借款案件承認を得ていた米州開発銀行 (IDB) からの借款 2 億 5,000 万ドルのうち、当国国会は 1 億 1,970 万ドルを国家予算へ組み込む旨承認した。また、同決定に関し、ブケレ大統領は拒否権を行使することなく、同承認を受け入れた。今回の承認により決定された同借款の用途詳細は以下のとおり。なお、8 月の案件承認時点で組み込まれていた防災減災資金への資金 2,000 万ドル及び農牧省への 4,000 万ドルに関する国家予算への組み込みは承認されていない。

(1) 7,500 万ドル：262 の自治体に向けた対 COVID-19 予防策投資

(2) 5,500 万ドル：FOMILENIO 第 2 フェーズ

(3) 5,200 万ドル：退役軍人支援 (8 月の案件承認段階では 1,200 万ドルが充てられる予定であった。)

(4) 1,540 万ドル：エルサルバドル病院 (8 月時点では 3,000 万ドルが充てられる予定であった。)

### 2. 家族送金額の増加

14 日、当國中銀は 7 月に続き、8 月の家族送金額がさらに増加した旨発表した。8 月の送金額は 5 億 5,926 万ドルに上り、前年同期比 8,820 万ドル増、増加率は 18.7% に上った。2020 年 1 月から 8 月までの総額は、36 億 3,560 万ドル (前年同期比 6,270 万ドル減、マイナス 1.7%) となった。

### 3. マルティネス中銀総裁の辞職及びロドリゲス新総裁の就任

17 日、当地報道番組はニコラス・マルティネス中銀総裁が辞表を提出したと報じた。同総裁は辞職理由に関して「不可抗力によるものである」と述べた。前日 16 日には、当国国会で当国政府の COVID-19 対策に充てる借入資金管理についての詳細な報告を行ったばかりであった。

19 日、ダグラス・ロドリゲス中銀総裁が新総裁として任命された。ロドリゲス新総裁は、ブケレ大統領がヌエボ・クスカトラン市及びサンサルバドル市でそれぞれ市長を務めていた際に両市役所で勤務していた経歴を有する。

#### 4. 電気自動車・ハイブリッド車使用促進法の可決

(1) 24日、国会は、「電気及びハイブリッド交通手段の輸入及び使用のための振興・促進法」を可決した。同法は、財政及び経済的インセンティブを確立することにより、官民両セクターにおける電気自動車やハイブリッド車の利用を促すことを目的としている。

(2) 同法により、電気自動車及びハイブリッド車の輸入に対する関税がゼロとなる。また、輸入による付加価値税（IVA）及び新車の電気自動車やハイブリッド車の国内初期登録税の支払いも免除される。

(3) 中古車に関しては、免税率は25%であり、自転車やその他電気モーターのみで駆動する乗り物は、免税率は100%となる。同免税措置は、法律が施行されてから10年間適用される。

(4) 新車の電気自動車及びハイブリッド電気自動車は、最初の車両登録証が発行されてから2年間は、「自動乗用車公共登録」への毎年の登録料が免税される。

(5) また、同法は、公共及び民間の駐車場やスーパーマーケット、ショッピングモール内における電気自動車のために割り当てられた「緑の駐車場（parqueos verdes）」の使用について定めている。

(6) 充電スタンドは、公共もしくは民間スペースのどちらにでも、設置することができる。スタンドの建設、開設及び充電サービスの商業化は、電気エネルギーの配給者もしくは、商業者が行うこととする。充電サービス提供への参入を許された個人も法人も、該当する充電スタンドにおいて、収入が生じた時点から5年間所得税の支払いが免除される。

(7) 同法は、環境省が電気自動車・ハイブリッド車のバッテリー及びその他の部品に関し、適切な最終処理を定めるよう命じている。

(8) また、同法は、官民の財政機関が、公共交通システムへの使用を目的とした電気自動車及びハイブリッド車購入のための融資ラインを設けるよう定めている。

#### 5. 中銀による第2四半期GDPレポート

30日、当國中銀は第2四半期GDPレポートを発表したところ、概要は以下のとおり。

(1) 3月からのCOVID-19のパンデミックの影響を受けたエルサルバドル経済の2020年上半期のGDP成長率は、前年同時期との比較において-9.3%を記録した。右マイナス成長の数値は、政府による現金及び食糧パッケージの支給による一般家庭支援策、公共投資の実施、エルサルバドル病院の開設に代表される公衆衛生の非常事態に対応するための医療機器の購入等によって、予想されたマイナス成長数値よりも低いものとなった。

(2) 2020年上半期の生産量は全19産業のうち15産業で減少を記録した。特に影響が大きかった産業は以下のとおり。

(ア) アーティスト、エンタテインメント、娯楽産業：31.2%減

(イ) 宿泊、飲食産業：28.3%減

(ウ) 教育、科学産業：20.3%減

(エ) 製造業：18.3%減

(オ) 建設、建設サービス業：17.5%減

(カ) 商業：15.7%減

(キ) 物流倉庫業：14.9%減

(ク) 採鉱・採石産業：13.8%減

(3) パンデミックによる経済へのマイナスの影響は第2四半期に顕著に表れている。第1四半期のGDP成長率が0.8%を記録したのに対し、第2四半期は-19.2%を記録した。右数値は、エルサルバドルにとって最大の貿易相手国である米国が、同第2四半期に記録した-31.4%よりは低い数値に留まっている。

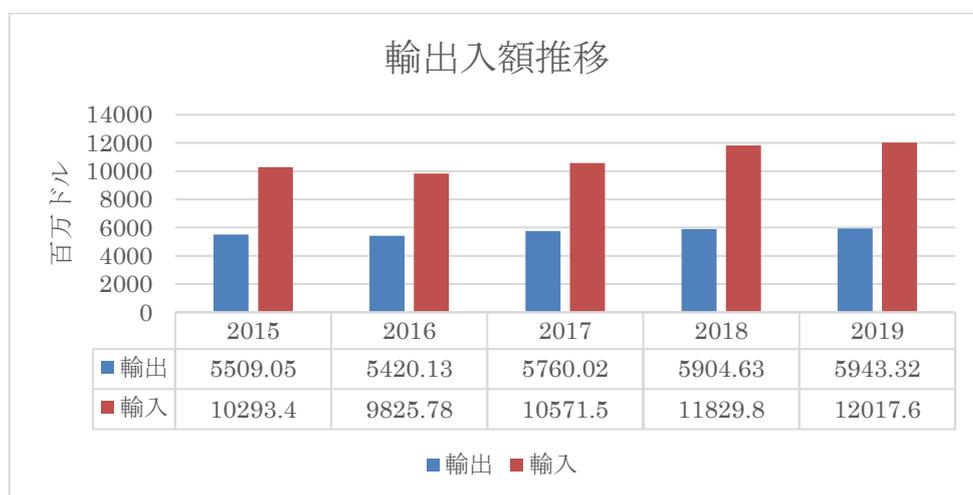
(4) 世界は、パンデミックの経済的影響及び経済回復に要する時間がどれぐらいになるかについて不明瞭な状態にある。中銀は2020年の経済成長率について-6.5%から-8.5%になるとの予測を維持している。

(5) 2020 年下半期は経済状況の改善が期待される。実際に輸出及び郷里送金は直近の数か月において改善を示している。また、8 月からは多くの経済活動が再開している。2021 年には経済成長率 3.9%が予測され、この数値は 2022 年以降数年間にわたり落ち着いていくものと考えられる。中銀は 6 月に発表した予測との比較において、2020 年の経済成長率については同様の予測を維持しているが、2021 年から 2023 年に関しては、上方修正を行っている。

## 6 2021 年国家予算案の国会提出

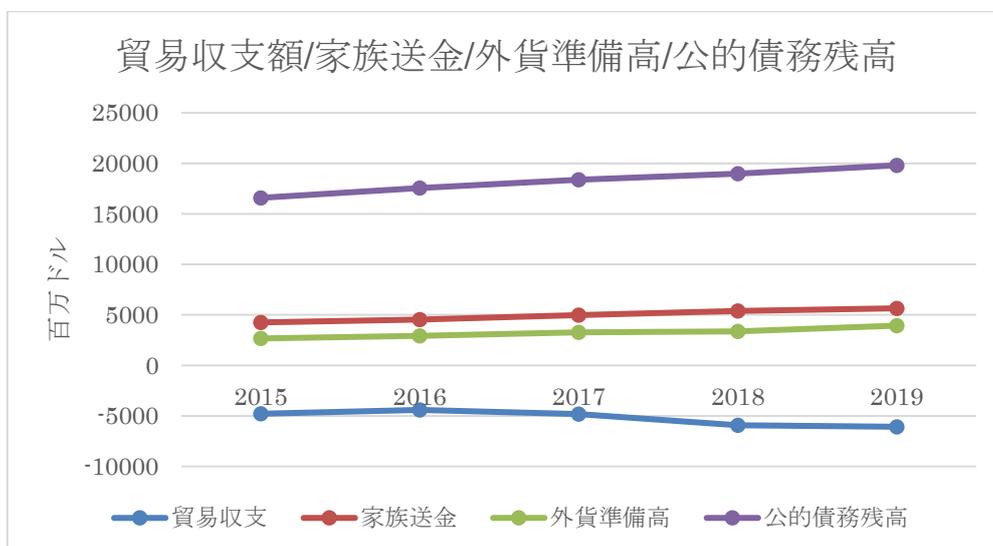
(1) 30 日、ブケレ政権は 2021 年国家予算案を国会に提出した。歳出は 2020 年国家予算より 16%増となる 74 億 5,350 万ドルとなっているが、COVID-19 のパンデミックの影響による経済のマイナス成長、右パンデミックへの対応のために借り入れる新規借款案件による債務増加に基づく財務健全性への懐疑的見方の広まりを念頭に置いた場合、2021 年国家予算は財務に対する厳格性の欠けたものとの指摘がなされる。

(2) 政府は 2021 年の経済成長率を 5.5%、税収を 51 億 6,990 万ドルと見込んでいるが、新型コロナウイルスのパンデミックの影響により、本年第 2 四半期の経済成長率は -19.2%を記録しており、経済活動再開による経済回復が見込まれているものの、税収額も含め、現実性に即していない国家予算案であるとの批判が起こっている。



(当國中銀データをもとに作成)

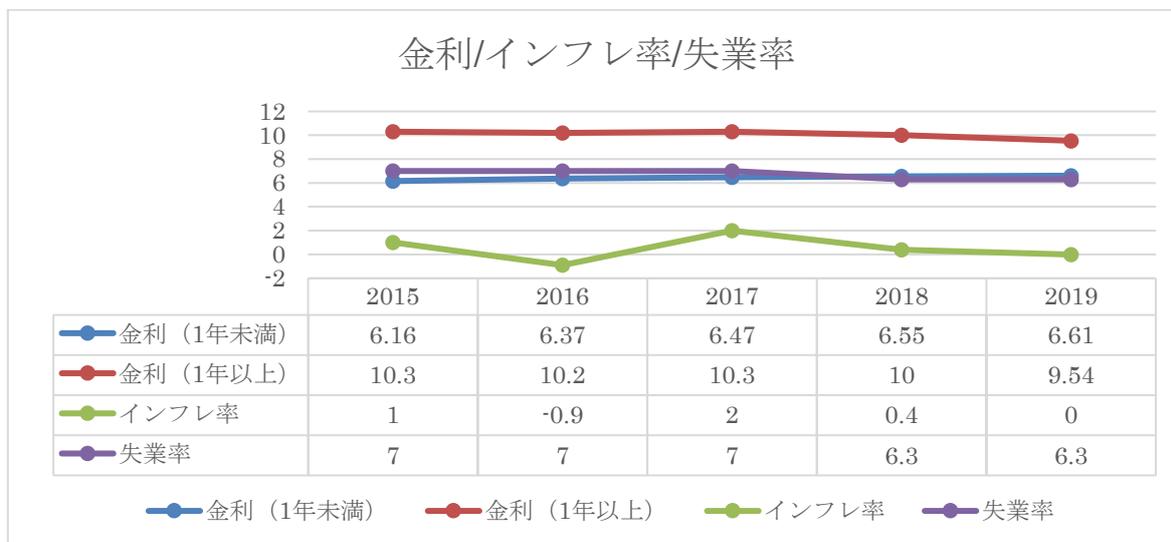
・ 2019 年の輸出額 5,943.32 百万ドルとなり、前年比 0.66%増加した。輸入額は 12,017.6 百万ドルとなり、前年比で 1.59%増加した。



(当國中銀データをもとに作成)

・ 2019 年家族送金額は 5,650.21 百万ドルであった。その内、米国からの送金は全体の 94.9% を占め、米国からの送金だけで総額 5,364.6 百万ドル、成長率 5.2% であった。

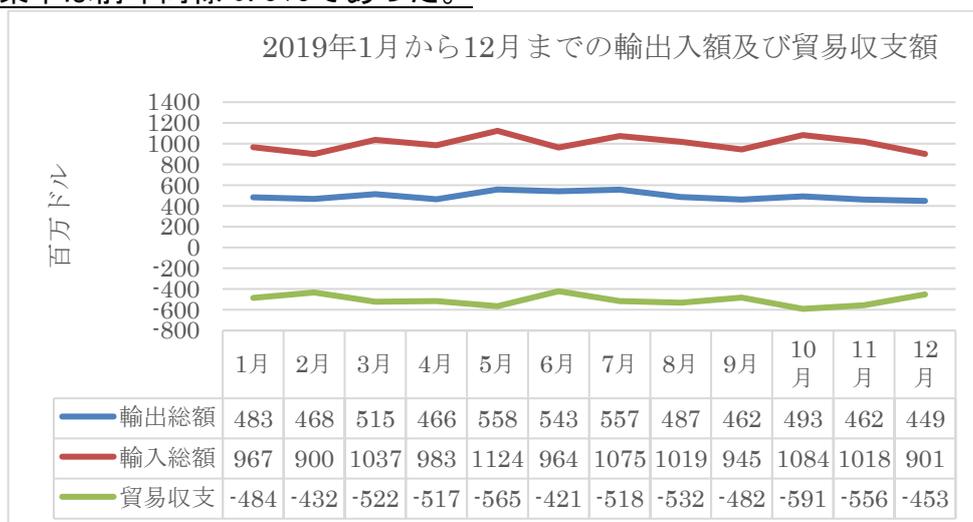
・ 貿易収支は-6074.2 百万ドルとなり、前年比-149.08 百万ドルであった。



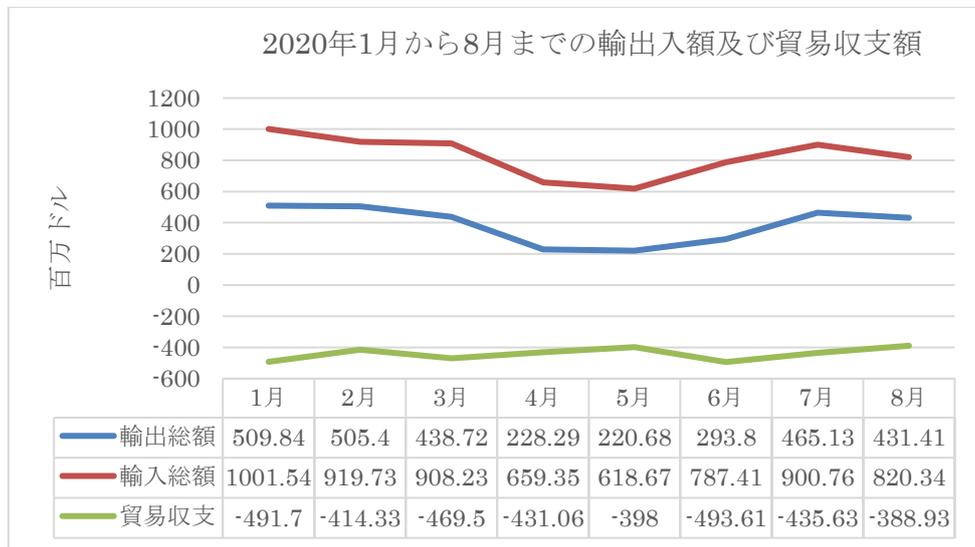
(当国中銀データをもとに作成)

・ 2019 年のインフレ率は-0.004%となり、前年と比較し、0.434 ポイント減少した。

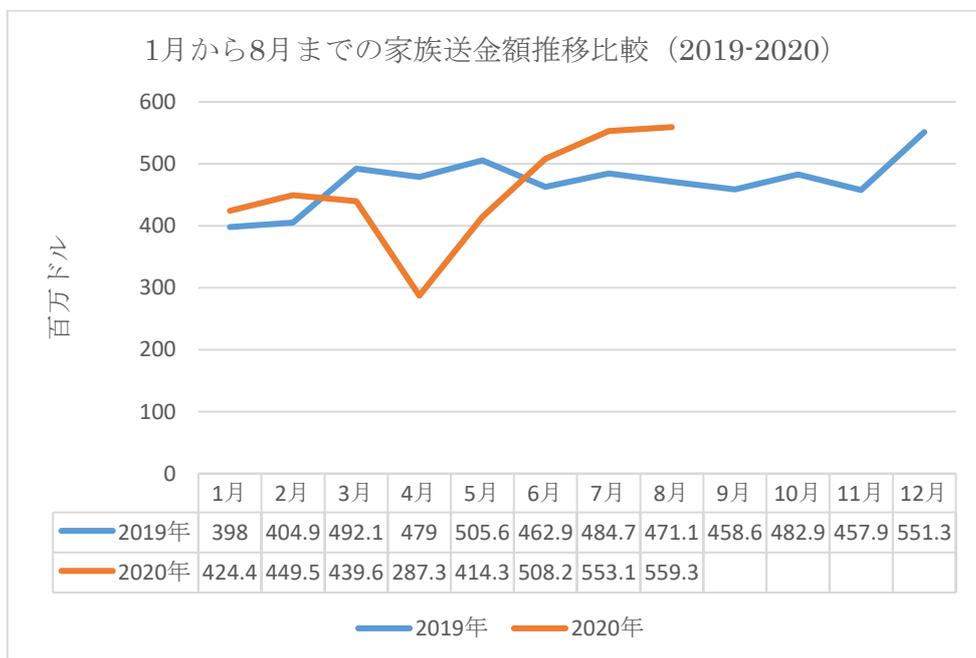
・ 2019 年の失業率は前年同様 6.3%であった。



(当国中銀データをもとに作成)



(当國中銀データをもとに作成)



(当國中銀データをもとに作成)

## 治安

### 【主要事件・報道】

#### 1. 検察庁による2020年上半期の行方不明者の統計 (報道)

- (1) エルサルバドル検察庁は、2020年上半期の行方不明に関する訴えは824件(1日平均約5件)、このうち467件は捜索対象者が発見され、残り357件については捜査を継続していることを発表した。
- (2) 行方不明者の多くは国内中央地域7県に集中しており、当該地域における行方不明者の訴えは507件(解決済282件、未解決225件)、次いで東部地域4県の172件(解決済88件、未解決84件)、西部地域3県では158件(解決済97件、未解決61件)となり、県別で見た場合、首都であるサンサルバドル県での訴えが最も多く259件、次いでラリベルタ県の131件であった。(各地域の実行方不明者数の合計は837名になるが、検察庁が公表した行方不明者数824名との相違に関しては、記事では言及されていない。)
- (3) 行方不明に関する訴え824件のうち、行方不明者の生存が確認された430件中、308件は犯罪との関連はなく、失踪の理由は家族問題202件、経済的要因23件、犯罪組織からの逃避16件、

外的要因 16 件、明確な理由無し 51 件であった。また、監禁、性暴力、窃盗、傷害等の犯罪と関連がある行方不明事件は 112 件であった。

- (4) 行方不明の対象者が発見された 467 件のうち、対象者が遺体で発見されたケースは 37 件あり、そのうち被害者が男性の事件が 22 件、被害者が女性の事件が 4 件、残り 11 件の死因は、自然死、事故、災害等によるものであった。  
※本記事に関する件数一覧は後頁に掲載。

## 2. 最高裁による少女に対する暴力事件に関する統計（報道）

- (1) 最高裁判所が取り纏めた報告書によれば、エルサルバドルにおける新型コロナウイルス感染防止対策として実施された 3 か月間に渡る完全自宅待機命令期間中に、サンサルバドル県下において、何らかの暴力の被害者となった未成年の女性が 147 人に上ることが判明した。被害の内訳として、家庭内暴力 99 人、性的虐待 17 人、4 月から 6 月で育児放棄を被った 22 人（残り 9 人の被害は不明）、これに加えて 218 人も女性がサンサルバドル県下の各地域で暴力の被害者となり、期間中の女性被害者は 365 人となり、当局は新型コロナウイルスのパンデミックにより未成年の少女に対する暴力が増加したと結論づけている。
- (2) 検察庁では今年 1 月から 5 月の間で、子供に対する暴力の訴えを 974 件受理しており、メララ検察庁長官は、受理件数が過去最大になったことは、国の緊急事態であると断言し、「被害者たちは、彼らの自宅でさえも安全でない。」と SNS を通じて発信した。またバレラ教育大臣は、教育省として子供に対する暴力の訴え 250 件に対応した件、被害者は心理的、及び法的支援を受けていると述べ、国立児童・青年審議会（CONNA）は、1 月から 4 月の間で、権利を侵害された少年・少女より 3,664 件もの訴えがあり、そのうち 3,110 件が心理的及び物理的な暴力による権利の侵害に関する訴えであったことを明らかにした。
- (3) 最高裁判所によれば、性的虐待は、訴えの中でも 2 番目に多い犯罪であり、検察庁の統計によると、昨年 1 年間で子供に対する性的虐待の訴えは 4,000 件以上あり、1 日平均 10 件に上った。これらのうち未成年に対する性的虐待の 80%は、家族間によるもので、被害者の 70 から 80%は加害者との間で事件が起こる前に信頼関係があり、事件の半数以上が家庭内で発生していた。

### 国内の県別行方不明者数詳細

| 県名       | 搜索願件数 | 解決    | 未解決   | 地域   |
|----------|-------|-------|-------|------|
| サンサルバドル県 | 259 件 | 138 件 | 121 件 | 中央地域 |
| ラリベルタ県   | 131 件 | 79 件  | 60 件  | 中央地域 |
| ソンソナテ県   | 72 件  | 46 件  | 26 件  | 西部地域 |
| サンミゲル県   | 60 件  | 20 件  | 40 件  | 東部地域 |
| サンタアナ県   | 55 件  | 35 件  | 20 件  | 西部地域 |
| ウスルタン県   | 46 件  | 32 件  | 14 件  | 東部地域 |
| ラウニオン県   | 45 件  | 28 件  | 17 件  | 東部地域 |
| ラパス県     | 29 件  | 16 件  | 13 件  | 中央地域 |
| クスカトラン県  | 27 件  | 16 件  | 11 件  | 中央地域 |
| アワチャパン県  | 26 件  | 16 件  | 10 件  | 西部地域 |
| サンビセンテ県  | 23 件  | 17 件  | 6 件   | 中央地域 |
| モラサン県    | 21 件  | 8 件   | 13 件  | 東部地域 |
| カバニヤス県   | 18 件  | 7 件   | 11 件  | 中央地域 |
| チャラテナンゴ県 | 12 件  | 9 件   | 3 件   | 中央地域 |

月別の行方不明者訴え件数

|    | 搜索願件数 | 解決   | 未解決 |
|----|-------|------|-----|
| 1月 | 184件  | 121件 | 63件 |
| 2月 | 196件  | 111件 | 85件 |
| 3月 | 160件  | 91件  | 69件 |
| 4月 | 106件  | 57件  | 49件 |
| 5月 | 93件   | 52件  | 41件 |
| 6月 | 85件   | 46件  | 39件 |

世代別行方不明者件数

|        | 搜索願総数 | 男性   | 女性   | 解決済  | 男性   | 女性   | 未解決  |
|--------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 0～11歳  | 23件   | 14件  | 9件   | 13件  | 7件   | 6件   | 10件  |
| 12～30歳 | 434件  | 231件 | 203件 | 232件 | 120件 | 130件 | 200件 |
| 31～50歳 | 174件  | 139件 | 35件  | 105件 | 83件  | 22件  | 69件  |
| 51歳以上  | 112件  | 90件  | 22件  | 64件  | 47件  | 17件  | 48件  |
| 年齢不明   | 91件   | 58件  | 33件  | 66件  | 47件  | 19件  | 25件  |

【観光地等における危険度レベル】

レベル1:十分注意区域

レベル2:不要不急の渡航中止区域

|                          |               |
|--------------------------|---------------|
| 国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA) | サンサルバドル旧市街    |
| ティン・マリン児童博物館             | 平生三郎公園        |
| エルサルバドル美術館(MARTE)        | サンサルバドル市の動物園  |
| プレシデンテ劇場                 | プエルタ・デル・ディアブロ |
| サンサルバドル近郊のゴルフ場           |               |
| ベンゴア球場                   |               |
| サンサルバドル市国立民芸品博物館         |               |
| クスカトラン・スタジアム             |               |
| サンサルバドル火山                |               |
| カフェタロン・フットサルコート          |               |
| ラ・リベルタ県のビーチ              |               |
| イロパンゴ湖                   |               |
| サンタテクラ旧市街                |               |
| コアテペケ湖                   |               |
| セロベルデ自然公園                |               |
| エル・ピタル山                  |               |
| ラ・パルマ市                   |               |
| サンタ・テレサ温泉                |               |
| スチト旧市街                   |               |
| サン・アンドレス遺跡               |               |
| タスマル遺跡                   |               |
| カサ・ブランカ遺跡                |               |
| サンタ・アナ旧市街                |               |
| オロメガ湖                    |               |
| エル・ホコタル湖                 |               |
| サン・ミゲル市                  |               |
| オロクイльта市                |               |

|         | 窃盗         | 強盗         | 傷害  | 殺人         | 恐喝 | 車両盗難      | 車両強盗      | 強姦         | 交通事故死     | 配送車盗難強盗  | 誘拐       |
|---------|------------|------------|-----|------------|----|-----------|-----------|------------|-----------|----------|----------|
| 2020年7月 | 360        | 215        | 194 | 112        | 76 | 38        | 31        | 99         | 59        | 2        | 1        |
| 2020年8月 | <b>383</b> | <b>236</b> | 192 | <b>122</b> | 72 | <b>54</b> | <b>38</b> | <b>123</b> | <b>86</b> | <b>4</b> | <b>0</b> |

